



2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

from 東北

ニュースレター

「第29号」

2017年5月17日

全国諸教会・伝道所の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。東北では、熊本・大分地震から1年が過ぎたことを覚えて祈りを合わせつつ、東北での被災地支援活動が続いています。今号では、東日本大震災から6年の仮設住宅において、どのようなことが起こっているのかということの一例として、宮城県牡鹿半島鮎川浜の出来事をお伝えします。引き続きお祈りとお支えをお願いいたします。

牡鹿半島鮎川浜からの報告

東日本大震災で多くの方々が亡くなったり、行方不明になりました。津波で何もかも失って仮設住宅に住む方々を訪問する中で顔見知りになり私たちを笑顔で迎えてくれる人が増えました。貴重な出会いが沢山与えられ、励ましたり励まされたりする関係が出来ていました。

阪神淡路大震災後、仮設住宅や復興公営住宅で誰にも看取られないで亡くなる孤独死が問題になりました。現地支援委員会も被災地支援を行う上で、そうした孤独死が無いようにと願っていました。メディアによると、被災した3県の孤独死は2016年末で188人です。そうした中で、宮城チームが訪れていた鮎川浜寺前仮設住宅に暮らす阿部栄子さんが亡くなりました。深い悲しみの中で、阿部さんの笑顔を思い浮かべています。

6年が過ぎて、新しい生活のために仮設住宅を出て行かれる方との別れはとても寂しいものがあります。けれど、事故や病気で仮設住宅の中で亡くなられた方もいます。宮城チームが支援している鮎川浜寺前仮設住宅の忘れられないお二人を紹介します。(向井田洋・仙台教会)



「武山さんとまたお茶が飲みたいね」石巻市の施設へ移られたお隣の武山さんを気遣っていた阿部さん。買い物カゴがないと散歩にもいけないと話す阿部さん（左、右は武山さん）



宮城チームのメンバーと阿部さん

また来るねって言ったのに

今年2月、がん検診の仕事で牡鹿半島の鮎川を訪れました。そこで検診を受けに来られた阿部栄子さんの近所の方にお話を伺いました。阿部さんのお顔を二三日見かけなかったのでお宅を訪問したところ、施錠されており、不審に思って警察と消防に連絡を取りました。亡くなった日は特定できなかったそうです。石巻市牡鹿総合支所の職員の方の話では、1月中旬に開催された仮設住宅移転の説明会には阿部さんも出席し、元気な様子だったということでした。私は1月9日に阿部さんのお宅を訪問しました。その時も新しい場所での生活を楽しみにしている様子でした。またお向かいにお住まいだった武山さんが施設に入られたことをとても気にしておられ、会いたいとおっしゃっていました。

寺前地区仮設住宅に関わらせていただき、様々な出来事に会いました。海外からのボランティアとの仮設住宅の台所の棚づくり。ボランティアが訪問するたびに鯨工芸品をプレゼントしてくださったご夫婦。そして火災で亡くなられた遠藤さんとの思い出。仮設住宅を出られ民宿泰平荘を再開された家族とのつながり。そして理容店を再開された武田さん。いつも阿部さんとお茶を飲んでおられた武山さん。もう少しでまた賑やかな生活を送ることができるはずだった阿部さんを思う時に、震災直後に「孤独死を出さないように」と語られた奥田知志さん（東八幡教会）の言葉の重さを思い出しています。関わり続けることの難しさと限界、震災はまだ続いています。（伊東信吉・大富教会）

NHK NEWSWEB

2014年（平成26年）2月18日【火曜日】

トップページ > 社会ニュース一覧 > 石巻の仮設住宅で火災1人死亡

ニュース詳細

石巻の仮設住宅で火災1人死亡

2月16日 19時52分



16日午前、東日本大震災で被災した人たちが暮らす宮城県石巻市の仮設住宅の1室が全焼し、この部屋に1人で住む69歳の女性が死亡しました。

16日午前10時半ごろ、宮城県石巻市鮎川浜にある仮設住宅「鮎川浜寺前団地」の遠藤とく子さん（69）の部屋から煙が出てると近くに住む人から消防に連絡がありました。

火はおおよそ20分後に消し止められましたが、遠藤さんの部屋30平方メートル余りが全焼し、遠藤さんは病院に搬送されましたが、死亡しました。

遠藤さんは1人暮らしで、警察や消防で火事の詳しい状況や原因を調べています。

ます。石巻市によりますと、仮設住宅「鮎川浜寺前団地」は、東日本大震災で被災した住民、7世帯12人が暮らしているということです。



遠藤さんの玄関。訪れたときは、まだ片付いていませんでした。手向けた花が寂しそうでした



宮城チームのメンバーと遠藤さん

お風呂の火災事故で亡くなる

(2014年2月16日当日のNHKニュース記事)

鮎川浜の寺前団地で仲良くなった遠藤とく子さんが火事で亡くなったとの報を受けた時は、腰の力が抜けて、そこに座り込んだ記憶があります。僕たち宮城チームが訪問するときは、いつも、奥から「はいー」って元気な声を返してくれました。何気ない世間話をしながら、復興の進み具合、季節の移ろいなどのおしゃべりを交わすのがとても嬉しくて、どっちが励まされているんだろうといつも遠藤さんに感謝していました。遠藤さんのお隣が床屋の武田さんです。火事で少し燃えたのでしょうか。匂いがキツくてすぐ他へ移られました。

同じ棟の反対側にお住まいだったのが、阿部栄子さん。優しい方で、遠藤さんのことも心配されていました。仮設にお住まいの皆さんは、いつも他の方を心配されていました。「自分なんか、まだ良い方だ。こうして皆が笑顔で訪ねてきてくれるもの。ありがたいっちゃんね。」

2017年2月、鮎川浜の寺前仮設の皆さんは全員引っ越されもう誰も住んでいません。遠藤さんと阿部さんにもう一度会いたいです。

(向井田洋・仙台教会)